

答申を踏まえた基本的な方向性と事業計画案 比較表

答申を踏まえた基本的な方向性	事業計画案
第4章 再開発のテーマとまちづくりの考え方	第5章 事業の方針
1. まちづくりのテーマ	1. まちづくりのテーマ
テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間	テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間
取組の考え方1 多くの人々の関心を惹く緑・海辺空間	取組方針1 多くの人々の関心を惹く緑・海辺空間
<p>(1) 周辺地域と連なる水際線と、都市を包み込む魅力的な緑・海辺空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市に彩りを与える緑や海辺を創出するとともに、臨港パークから山下公園に至る動線と連続した、横浜らしさが感じられ世界に誇れる水際線を形成する。 ・都心臨海部に広がる緑の軸線や周辺地域の緑と有機的につなげ、ウォーカブルな空間を形成する。 ・まとまった緑地や、建物と一体となった立体的な緑などにより、地区全体に広がる緑の空間を形成することで、圧倒的な緑・海辺に都市が包み込まれるような環境を創出する。 ・大さん橋や山下公園から望める開放的な海辺を生かし、人々の活動が表出した水際空間を創出する。 	<p>(1) 周辺地域と連なる水際線と、都市を包み込む魅力的な緑・海辺空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市に彩りを与える緑や海辺を創出するとともに、臨港パークから山下公園に至る動線と連続した、横浜らしさが感じられ世界に誇れる水際線を形成する。 ・都心臨海部に広がる緑の軸線や周辺地域の緑と有機的につなげ、ウォーカブルな空間を形成する。 ・地区全体に多様な自然空間を形成することで、圧倒的な緑・海辺に都市が包み込まれるような環境を創出する。 ・都市の中でも心休まる樹冠に覆われた生物を育む緑量ある空間、海辺の景色を背景に安らぎと賑わいを生み出す広大な緑のオープンスペース、水際線のウォーカブルな空間に調和し、寛ぎを与える連続した緑、建物の屋上や壁面と一体となった立体的な緑など、緑が持つ幅広い機能を生かしたまちづくりを行う。 ・大さん橋や山下公園から望める開放的な海辺を生かし、人々の活動が表出した水際空間を創出する。 ・一年を通じて緑や海辺が見える快適な屋内空間や、季節の移り変わりに合わせて、木陰と海風の涼しさや陽だまりの暖かさに包まれる心地よい屋外空間を創出する。
<p>(2) 都市と自然が共生した、ここにしかない緑・海辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季のうつろいなどの日本らしさや港町横浜らしさなど、他に類を見ない価値が感じられる象徴的な緑・海辺の創出により、世界中の人々が訪れたいウォータースタイルを実現する。 ・多様で豊かな自然環境の創出、生物多様性の保全、環境負荷の低減など、都市と緑・海辺が共生したまちづくりを行う。 	<p>(2) 都市と自然が共生した、ここにしかない緑・海辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な木々や花による四季のうつろいなどの日本らしさや港町横浜らしさなど、他に類を見ない価値が感じられる象徴的な緑・海辺の創出により、世界中の人々が訪れたいウォータースタイルを実現する。 ・緑と海に生きる多様な生物を育み、間近で観察できる環境の創出・保全、温暖化対策に資する環境負荷の低減など、都市と緑・海辺が共生したネイチャーポジティブなまちづくりを行う。 ・豊かな自然と最先端の都市機能が調和しながら広がる山下ふ頭ならではの価値を発信し、人々を呼び込むことで、環境保全と観光振興の相乗効果を生み出し、持続可能な未来のまちづくりにつなげていく。

取組の考え方2 新たな発見や感動をもたらす緑・海辺空間	取組方針2 新たな発見や感動をもたらす緑・海辺空間
<p>(1) 体験・体感による行動変容や新たな交流を生む緑・海辺の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然や空の広がりを感じられる空間を形成するとともに、緑や水際空間における多彩な体験を創出することで、新たな発見や感動を与え、日々の生活が潤い、何度も訪れたいくなるまちづくりを行う。 ・緑や海との触れ合いを通じて、自然環境や生物多様性の重要性などを学ぶことができ、行動変容につながるような、教育的な役割を果たす環境を創出する。 ・市民をはじめとする来街者の誰もが快適に過ごせ、様々な活動や体験を楽しみ、憩い、交流できるウェルビーイングなオープンスペースなどを創出する。 ・市民が主体的に活動し、コミュニティの形成を促進する良質な空間を創出する。 	<p>(1) 体験・体感による行動変容や新たな交流を生む緑・海辺の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然や空の広がりを感じられる空間を形成するとともに、緑や水際空間における多彩な体験を創出することで、新たな発見や感動を与え、日々の生活が潤い、何度も訪れたいくなるまちづくりを行う。 ・横浜の歴史と未来を感じる緑地、徒歩だけでなく多様な移動手段で海辺の景観と街並みを楽しめる水際線、自然を生かした食育の場など、緑と海辺が持つ機能の融合により、人々が行ってみたいと憧れるような賑わいと活気があふれる空間を形成する。 ・緑や海との触れ合いを通じて、自然環境や生物多様性の重要性などを学ぶことができ、行動変容につながるような、教育的な役割を果たす環境を創出する。 ・綺麗で豊かな海づくりなどの海洋環境を保全する取組や、安心して海に親しみ、遊び、学べる場づくりなどを通じて、子どもたちの心に残る原体験につながる場とし、自然と向き合い寄り添える将来世代の育成につなげていく。 ・幅広い世代の来街者が快適に過ごせ、様々な活動や体験を楽しみ、憩い、交流できるウェルビーイングなオープンスペースなどを創出する。 ・市民が主体的に活動し、コミュニティの形成を促進する良質な空間を創出する。
<p>(2) ウォーターフロントの空間が織りなす非日常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心に近接しながらも自然と日常的に触れあえる環境だけでなく、非日常感を演出する空間を創出する。 ・三方を海に囲まれた山下ふ頭の立地特性を生かし、客船や水上交通などといった船がある港の風景や魅力的な夜間景観の形成など、新たな発見や感動をもたらす、非日常感を体感できる空間を創出する。 	<p>(2) ウォーターフロントの空間が織りなす非日常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心に近接しながらも自然と日常的に触れあえる環境だけでなく、非日常感を演出する空間を創出する。 ・三方を海に囲まれた山下ふ頭の立地特性を生かし、客船や水上交通などといった船がある港の風景や魅力的な夜間景観の形成など、新たな発見や感動をもたらす、非日常感を体感できる空間を創出する。

テーマⅡ 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション	テーマⅡ 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション
取組の考え方1 多様な人材・技術の交流による絶え間ないイノベーションの創出	取組方針1 多様な人材・技術の交流による絶え間ないイノベーションの創出
<p>(1) 緑・海辺の環境を生かしたイノベーション拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様で良質な緑・海辺の環境に企業や研究・教育機関等呼び込み、GX等の新たな価値や次世代のニーズに応える最先端技術などに関して、イノベーションに取り組む拠点を創出する。 	<p>(1) 緑・海辺の環境を生かしたイノベーション拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様で良質な緑・海辺の環境に新たな価値を創造する企業や研究・教育機関等呼び込み、イノベーションに取り組む拠点を創出する。 エネルギーやモビリティを含むGXや、AI、バイオ、食など、次世代のニーズに応える技術や新たなサービスの開発につながる挑戦的な取組が、先行的・継続的に展開できるエリアを形成するとともに、最先端のイノベーションが生まれ続けるまちの姿を戦略的にプロモーションすることで、グローバル都市としてのブランディングにつなげていく。 企業等呼び込むことで得られる経済効果や、新たな技術の実装を通じた成果等を市民生活に還元させ、市域全体の持続的な発展に繋げる。
<p>(2) 体験・体感によるイノベーションの循環と発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 最先端技術を実証できるオープンなフィールドを展開するとともに、市民や来街者の体験・体感を通じた実証結果の反映により、イノベーションの循環と発展を促し、社会実装へ結び付ける。 国内外から呼び込む多様な人材が、市民や来街者と出会い、交流する場を設けることで、イノベーションの芽となる新たな気づきや発想を促進し、持続的なまちの発展につなげる。 	<p>(2) 体験・体感によるイノベーションの循環と発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 最先端技術を実証できるオープンなフィールドを展開するとともに、市民や来街者の体験・体感を通じた実証結果の反映により、イノベーションの循環と発展を促し、社会実装へ結び付ける。 国内外から呼び込む多様な人材が、来街者と出会い、交流する場を設けることで、イノベーションの芽となる新たな気づきや発想を促進し、変化を続けるまちの魅力創出や持続的な発展につなげる。 展示会やワークショップ等のイベントにとどまらず、ミュージアム、パビリオン等の要素を取り入れた施設や、来街者が日常的に周遊する屋外空間など、様々なシーンで最先端の技術やサービス、新たなライフスタイルが体験・体感できる環境を構築する。
<p>(3) 人材育成によるイノベーション創出のための土壌形成</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーションが持続的に創出される土壌を形成するために、既存の枠組みを超え、周辺地域の多様なイノベーション拠点・組織・人材との連携を図る。 若者など次代を担う人材が新たな技術を体感し学べることや学術振興への寄与など、教育的役割を果たすことで、世界に通用する人材を育成する。 	<p>(3) 人材育成によるイノベーション創出のための土壌形成</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーションが持続的に創出される土壌を形成するために、既存の枠組みを超え、周辺地域の多様なイノベーション拠点・組織・人材との連携を図る。 起業支援や成長支援、交流促進などの多様な機能の導入により、規模や領域の異なる市内外の企業等の人材・知見が交差・融合する機会を創出することで、新たな連携や事業展開が持続的に生み出される環境を構築する。 次代を担う人材が新たな技術を体感し学べる機会の創出等により、学術振興への寄与などの教育的役割を果たすことで、世界に通用する人材の育成・輩出につなげるとともに、子育て世代をはじめ、誰もが働きやすく憧れを抱くような環境を構築する。

取組の考え方2 時代の最先端の技術が実装される世界を代表するグリーン社会の実現	取組方針2 時代の最先端の技術が実装される世界を代表するグリーン社会の実現
<p>(1) 先導的なグリーン技術が広がる、常に新しいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> グリーン社会の実現に貢献する新たな技術が常に実装された、時代を先導するまちの実現により、横浜のプレゼンス向上につなげる。 	<p>(1) 先導的なグリーン技術が広がる、常に新しいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 山下ふ頭全域を舞台とし、グリーン社会の実現に貢献する新たな技術が常に実装された、時代を先導するまちの実現により、横浜のプレゼンス向上を図り、次世代へと継承していく。 GREEN×EXPO 2027の理念と成果を都市のレガシーとして継承し、循環型社会、脱炭素、生物多様性の回復という地球規模の課題の解決に向けて、自然を活用した解決策：ネイチャーベースド・ソリューションによるアクションを世界へ波及し続ける環境を構築する。
<p>(2) 付加価値を生み出す循環型のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs 未来都市横浜の実現に貢献するとともに、サーキュラーエコノミーの推進等、循環型社会の実現に向け、区域内から排出される廃棄物について、リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（資源化）に加え、リニューアブル（再生可能）等、新たな循環に取り組む環境を創出する。 新たに導入される様々なグリーンインフラの活用や、雨水の有効利用など、持続的な水資源の循環を推進する。 	<p>(2) 付加価値を生み出す循環型のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs 未来都市横浜の実現に貢献するとともに、サーキュラーエコノミーの推進等、循環型社会の実現に向け、区域内から排出される廃棄物について、リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（資源化）に加え、リニューアブル（再生可能）等、新たな循環に取り組む環境を創出する。 サーキュラーエコノミーの先進的な取組を多分野で展開するだけでなく、その成果の「見える化」を通じた子どもたちの学びの機会の創出など、循環型社会への理解促進に資する環境を創出する。 自然の多様な機能を活用したグリーンインフラの導入や、雨水の有効利用など、持続的な水資源の循環を推進する。
<p>(3) 世界の脱炭素化を先導する効果的なエネルギー利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 区域全体でのエネルギー利用・供給の効率化、再生可能エネルギーの導入、用途に応じたエネルギーのベストミックス等、最先端の脱炭素技術を最大限導入することで、世界の「ゼロカーボン」を先導するまちづくりを実現する。 エネルギー利用や、環境負荷の少ない資機材の使用等、ライフサイクル全体での環境負荷を最小限に抑えた建築物の整備、緑・海辺空間を活用した炭素吸収、環境配慮型の次世代交通システムの導入等により、脱炭素化を推進する。 	<p>(3) 世界の脱炭素化を先導する効果的なエネルギー利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 区域全体でのエネルギー利用・供給の効率化、再生可能エネルギーの導入、用途に応じたエネルギーのベストミックス等、最先端の脱炭素技術を最大限導入することで、世界の「ゼロカーボン」を先導するまちづくりを実現する。 再生可能エネルギーの導入にあたっては、太陽光、バイオマス、波力、潮力等、将来を見据えた幅広い選択肢の中から、立地特性や区域内の施設との連動、地産地消の視点も踏まえ、先進的かつ多様なエネルギー源の確保を図る。 エネルギー利用や、環境負荷の少ない資機材の使用等、ライフサイクル全体での環境負荷を最小限に抑えた建築物の整備、緑・海辺空間を活用した炭素吸収、環境配慮型の次世代交通システムの導入等により、脱炭素化を推進する。
<p>(4) 都市に寄り添う自然の再興</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑や海辺に関連する多様な生物を保全し、生育を促すとともに、気候変動対策や資源循環等の施策を踏まえた取組により、ネイチャーポジティブの実現につなげる。 	<p>(4) 都市に寄り添う自然の再興</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生物を保全し、生育を促すような水環境を有する緑の空間を創出するとともに、気候変動対策や資源循環等の施策を踏まえた取組により、ネイチャーポジティブの実現につなげる。

テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい	テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい
取組の考え方1 旅の目的地となる賑わい拠点の形成	取組方針1 旅の目的地となる賑わい拠点の形成
<p>(1) 国内外の多くの人々を惹きつけるコンテンツの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 山下ふ頭を「世界から選ばれる旅の目的地」とするため、幅広いニーズに応え、何度でも訪れたいくなるような、ここでしか味わえない世界最高水準のコンテンツや施設等が広がる賑わい拠点を形成する。 横浜ブランドを高めるため、日本の自然環境や伝統的な技術・文化、横浜独自の歴史など、様々な価値と最先端テクノロジーの融合等により、今までにない新しい魅力を創出する。 来街者の滞在や宿泊につなげるため、多様な人々の好奇心を十分に満たすことができる、付加価値の高い、魅力的・感動的な空間を創出する。 	<p>(1) 国内外の多くの人々を惹きつけるコンテンツの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 山下ふ頭を「世界から選ばれる旅の目的地」とするため、幅広いニーズに応え、何度でも訪れたいくなるような、ここでしか味わえない世界最高水準のコンテンツや施設等が広がる賑わい拠点を形成する。 横浜ブランドを高めるため、様々な価値と最先端テクノロジーの融合等により、今までにない新しい魅力を創出する。 日本が誇る豊かな自然環境、食をはじめとする伝統的な文化、音楽、芸術、IP産業などの多様な魅力に加え、開港以来の横浜の歴史等を織り交ぜながら、この場所ならではのオリジナリティ溢れる体験を創出する。 来街者の滞在や宿泊につなげるため、子どもが安心して遊べる屋内外の空間、緑や海を生かしたアクティビティ、横浜の夜景を存分に楽しめる非日常的なコンテンツの提供などにより、平日から休日まで昼夜を問わず多様な人々の好奇心を十分に満たすことができる、付加価値の高い魅力的・感動的な空間を創出する。 水際線やオープンスペースには、子どもやペットと共に訪れる人々など、多様なライフスタイルの来街者それぞれに寄り添った空間を形成する。 訪れる度に新鮮さやワクワクを感じ、滞在時間が充実するようなイベント等の開催を促しつつ、周辺環境への配慮を行うことで、来街者だけでなく周辺住民の日々の暮らしに溶け込むような賑わいづくりを行う。
<p>(2) 多様な手段による誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪れる誰もが安心して滞在し、世界最高水準のコンテンツを楽しめるよう、ユニバーサルデザインなど多様な視点を取り入れたインクルーシブな空間を形成する。 国内の空港や港などを起点とした国際的な人流動向も踏まえながら、山下ふ頭の周辺地域のみならず、市内、県内、さらには日本各地の観光資源との広域的な連携により、多様な観光ニーズに応える環境を整え、横浜が旅の拠点となる誘客促進につなげる。 	<p>(2) 多様な手段による誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪れる誰もが安心して滞在し、世界最高水準のコンテンツを楽しめるよう、多様な視点を取り入れたインクルーシブな空間を形成する。 ユニバーサルデザインの視点、季節や天候に左右されにくい空間構成等により、子ども連れから外国人まで、多様な人々が安心して楽しめるような利便性の高い環境を創出し、継続的な来訪につなげていく。 デジタル技術を活用した多言語対応の案内やマナー啓発等の情報提供を充実させることで、クルーズ等を通じて初めて日本を訪れる方々が、横浜の魅力をストレスなく堪能できる環境を構築する。 国内の空港や港などを起点とした国際的な人流動向も踏まえながら、山下ふ頭の周辺地域のみならず、市内、県内、さらには日本各地の観光資源との広域的な連携により、多様な観光ニーズに応える環境を整え、横浜が旅の拠点となる誘客促進につなげる。 多彩なコンテンツの磨き上げだけでなく、山下ふ頭ならではの体験や景色等の多様な魅力を来街者が自ら発信しやすくなるような環境を構築するなど、持続的に人々を呼び込むきっかけづくりを行うことで、賑わいの循環を生み出す取組を推進する。

取組の考え方2 市域全体の活性化につながるまちづくり	取組方針2 市域全体の活性化につながるまちづくり
<p>(1) 市域に広がる魅力と相乗効果を生み出す賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外からビジネスや観光などで訪れる人々の目的地とするだけでなく、周辺地域や市内の魅力・資源と連携し、相乗効果を発揮できる賑わいづくり等を通じて、回遊性の向上や経済効果の波及につながるような、横浜の成長をけん引するシンボリックな拠点とする。 特に、日本有数のターミナル駅である横浜駅周辺地区や関内・関外地区、みなとみらい21地区等の都心臨海部や、旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部で展開している取組と連鎖反応を生み出すまちづくりを行う。 	<p>(1) 市域に広がる魅力と相乗効果を生み出す賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外からビジネスや観光などで訪れる人々の目的地とするだけでなく、臨海部から郊外部に至るまで、周辺地域や市内の魅力・資源と連携し、相乗効果を発揮できる賑わいづくり等を通じて、回遊性の向上や経済効果の波及につながるような、横浜の成長をけん引するシンボリックな拠点とする。 特に、日本有数のターミナル駅である横浜駅周辺地区や関内・関外地区、みなとみらい21地区等の都心臨海部や、旧上瀬谷通信施設地区で展開している取組と連鎖反応を生み出すまちづくりを行う。 山下公園通りや元町・中華街等、周辺地域で長年にわたり開催されている魅力的なイベントとの連携などにより、地域の特色や特産品に触れ、横浜の歴史や文化を学び楽しめるような仕掛けづくりに取り組むとともに、回遊性や体験価値の向上につなげていく。
<p>(2) 地域経済の活性化と雇用創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな賑わい創出、産業の活性化、港湾機能の活用などにより、将来にわたる地域経済への波及効果を創出する。 消費・雇用の創出、周辺地域で働く人々の収益向上、より良い労働環境の確保等を図ることにより、市民生活を支えるまちづくりを行う。 	<p>(2) 地域経済の活性化と雇用創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな賑わい創出、産業の活性化、港湾機能の活用などにより、将来にわたる地域経済への波及効果を創出する。 消費の拡大や多世代にわたる雇用の創出、周辺地域で働く人々の収益向上、より良い労働環境の確保等を図ることにより、市民生活を支えるまちづくりを行う。

<p>市民が結ぶ新たなまちの環</p>	<p>テーマⅣ 市民が結ぶ新たなまちの環</p>
<p>山下ふ頭再開発では、新たなまちに導入される機能等が地区全体で一体的・効果的に発揮されるよう、市民など多様な主体が参画できるまちづくりを行っていく。 実現に向けて、3つのテーマの調和によって生み出される新たな価値と魅力を共有できる場所を創出し、市民一人ひとりのシビックプライドを醸成する。</p>	<p>山下ふ頭再開発では、新たなまちに導入される機能等が地区全体で一体的・効果的に発揮されるよう、市民など多様な主体が参画できるまちづくりを行っていく。 実現に向けて、3つのテーマの調和によって生み出される新たな価値と魅力を共有できる場所を創出し、市民一人ひとりのシビックプライドを醸成する。</p>
<p>[市民参画のイメージ]</p>	<p>本テーマは、令和7年9月から5回にわたり開催された市民検討会での議論を中心に、これまでいただいた市民意見を踏まえた新たな視点や、他のまちづくりのテーマ等における市民参画等の考え方を示したものである。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな緑・海辺空間における環境保全や交流促進の取組 ○イノベーションにより生まれた最先端技術の体験体感 ○オープンスペースの活用等による賑わいづくりと地域活性化 ○国内外からの来街者を迎え、もてなす温もりある環境づくり 	<p>1 市民意見を踏まえた新たな視点</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が主体的に関わり、山下ふ頭への愛着が生まれるような取組を通じて、市民の活動に来街者が魅力を感じるまちづくりを行う。 ・「市民が訪れたいくなる」「市民満足度の向上に寄与する」視点を大切にしながら、横浜の特性を生かした魅力的なまちづくりを行う。 ・約47haの広大な開発空間全体で一貫したコンセプトを持ちながら、「余白」を意識した空間整備により、持続的な市民参画や変化と進化が絶えない柔軟なまちづくりを行う。
	<p>2 まちづくりのテーマやインフラ構築・空間整備における市民参画等</p>
	<p>(1) 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が木々や花々などの緑を植え、育てる、時間をかけてアップデートする取組 ・誰もが気軽にふらっと訪れ、市民など多様な主体が企画・運営するイベント等を楽しみ、交流するような、多目的なオープンスペースの形成 ・美しい海づくりに向けた取組により、市民の環境意識が高まるような機会の創出 ・横浜の農や漁といった自然の恩恵に触れる機会を創出し、市民と来街者の交流や学びにつなげる取組 <p>こうした取組等を通じて、豊かな自然を守り、育てたまちへの市民の誇りを醸成する。</p> <p>(2) 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外から集まる技術者等と市民が共に憩い交流できるような、イノベーションと自然空間が隣り合う環境の構築 ・子どもや若者等の市民が最先端技術に触れ、主体的に学べるような、次世代の人材育成につながる取組 ・クリーンエネルギー等のグリーン社会の実現に向けた技術実証等と、市民の体験がシームレスにつながるような取組 <p>こうした取組等を通じて、時代を先導するまちへの市民の誇りを醸成する。</p>

(3) 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい

- ・ハイカラに代表されるような国際性、ガス灯や赤レンガなどの特色ある街並み、芸術・音楽・食等の文化、ものづくりの技術など、市民が紡いできた「横浜の歴史」を次世代に受け継ぐ取組
- ・若い世代の市民が、これからの歴史の創り手として文化・芸術等を生み出すような交流・挑戦ができる空間の形成と、新たな価値の発信等によるブランディングの確立
- ・文化・スポーツ・芸術等をきっかけとした日常に寄り添う賑わいに、多様な世代の市民が集まり、交流し、コミュニティが形成されるような環境づくり
- ・市民によるクルーズ旅客の見送り等の賑わい創出、子どもから大人までワクワクできるエンターテインメントの提供等を通じて、新たなつながりや体験を生み出すような取組

こうした取組等を通じて、横浜が持つ歴史・文化への市民の誇りを醸成する。

(4) 「緑・海辺のまち」を支えるインフラ構築と空間整備

- ・ハード・ソフト面の取組を通じた、市民が国内外に誇れる、新たな「シンボル」の創出
- ・海に囲まれた立地の活用や最新技術の導入などにより、移動自体をコンテンツ化するなど、市民をはじめ多様な人々が気軽に訪れたいくなる仕掛けづくり
- ・広大な空間や多様な施設を生かした訓練等、周辺地域を含む多様な主体と連携しながら市民が災害を体験し学ぶことで防災力向上につながるような取組

こうした取組等を通じて、市民が訪れたいくなる魅力的なまちを支えていく。

「緑・海辺のまち」を支えるインフラ構築と空間整備	「緑・海辺のまち」を支えるインフラ構築と空間整備
取組の考え方1 まちをつなぎ、賑わいが広がる交通機能の強化	取組方針1 まちをつなぎ、賑わいが広がる交通機能の強化
<p>(1) 新たな交通結節点の形成による広域アクセス機能の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外から多くの人々を呼び込むため、全国主要都市、羽田空港、成田国際空港等と山下ふ頭を結ぶ長距離バスや水上交通等の導入により、市域における交通結節点の核の一つを形成する。 広域的なアクセス機能の確保を図るため、都心臨海部の道路ネットワーク構築や首都高からのアクセス強化を推進する。 	<p>(1) 新たな交通結節点の形成による広域アクセス機能の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外から多くの人々を呼び込むため、全国主要都市、羽田空港、成田国際空港等と山下ふ頭を結ぶ長距離バスや水上交通等の導入により、市域における交通結節点の核の一つを形成する。 クルーズや長距離バス等、陸と海から多様な移動手段で訪れた人々が、快適に乗り継ぎ、市内外を巡れる送客機能を確保する。 広域的なアクセス機能の確保を図るため、都心臨海部の道路ネットワーク構築や首都高からのアクセス強化を推進する。
<p>(2) 埠頭周辺の交通ネットワーク構築による利便性・回遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 回遊性の向上・訪れる誰もが安心して滞在し、世界最高水準のコンテンツを楽しめるよう、ユニバーサルデザインなど多様な視点を取り入れたインクルーシブな空間を形成する。 国内の空港や港などを起点とした国際的な人流動向も踏まえながら、山下ふ頭の周辺地域のみならず、市内、県内、さらには日本各地の観光資源との広域的な連携により、多様な観光ニーズに応える環境を整え、横浜が旅の拠点となる誘客促進につなげる。 	<p>(2) 埠頭周辺の交通ネットワーク構築による利便性・回遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 来街者の大幅な増加により生じる周辺住民及び物流への影響を緩和するとともに、利便性向上による誘客促進を図るため、埠頭内外を結ぶ新たな進入路や来街者需要に見合った駐車機能の確保、元町・中華街駅をはじめとする周辺駅との動線の確保など、自動車・歩行者アクセスの強化や、新たなモビリティの導入を推進する。 来街者の回遊性向上により経済効果を波及させるため、周辺の商店街、観光・商業施設等とつながるシャトルバスの運行やパーソナルモビリティ、パーク＆ライドの導入等、ハード、ソフトの両面から多様な交通ネットワークの構築を図る。 2階建て周遊バスや水上交通をはじめ、横浜ならではの景色を楽しめる移動手段や、環境負荷に配慮した最先端モビリティを活用することにより、「乗ること自体が新たな観光資源」となるアトラクション性の高い移動体験を創出する。 水上バス、観光船、旅客フェリーなど、多様な水上交通の導入により、陸だけでなく海や河川などを生かした交通体系を構築し、日常と観光の双方のニーズに対応する。
<p>(3) 埠頭内の円滑な移動につながる環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 広大な埠頭内に広がる様々な魅力をシームレスに巡れるよう、自動運転バスやグリーンスローモビリティの導入等、利便性・回遊性の高い移動手段を確保する。 平時から災害時まで、常に安全・安心で円滑に移動できる歩行者空間を形成する。 	<p>(3) 埠頭内の円滑な移動につながる環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 季節を問わず、広大な埠頭内に広がる様々な魅力をシームレスに巡れるよう、自動運転バスやグリーンスローモビリティ等の導入、天候等の影響を受けにくい屋内外の歩行空間の形成等、快適性・利便性・回遊性の高い移動手段を確保する。 観光・ビジネス・物流など、多様な利用目的を考慮しながら、適切な移動手段の確保や効率的な動線設計を行うことで、混雑を抑制し、安全で円滑に回遊・活動できる環境を構築する。 多言語に対応したデジタル案内の充実、バリアフリーに配慮した施設計画などにより、国外からの来街者を含め、誰もが安心して移動できる歩行者空間を形成する。

取組の考え方2 誰もが安心して滞在できる、災害に強いまちづくり	取組方針2 誰もが安心して滞在できる、災害に強いまちづくり
<p>(1) 市域全体の防災力向上につながる拠点形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震や津波・高潮をはじめとした大規模災害等に対し、高いレジリエンス（強靱性・適応力）を発揮できる、安全・安心なまちづくりを実現する。 海上からの緊急物資等の受入・輸送を行う拠点形成や、船舶を利用した災害時の避難等につなげるため、耐震強化岸壁（山下ふ頭2号岸壁）と埠頭外を結ぶ、強靱な道路を確保し、緊急物資等輸送ネットワークを形成するとともに、都心臨海部にある既存の耐震強化岸壁や、旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点等、陸と海の拠点が相互に役割を補完し連携することで、市域全体の防災力向上につなげる。 災害時においても、防災拠点として必要な機能が確保できるよう、自律分散型のエネルギー供給システムや、強靱な通信環境を構築する。 	<p>(1) 市域全体の防災力向上につながる拠点形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震や津波・高潮をはじめとした大規模災害等に対し、高いレジリエンス（強靱性・適応力）を発揮できる、安全・安心なまちづくりを実現する。 海上からの緊急物資等の受入・輸送を行う拠点形成や、船舶を利用した災害時の避難等につなげるため、耐震強化岸壁（山下ふ頭2号岸壁）と埠頭外を結ぶ、強靱な道路を確保し、緊急物資等輸送ネットワークを形成するとともに、都心臨海部にある既存の耐震強化岸壁や、旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点等、陸と海の拠点が相互に役割を補完し連携することで、市域全体の防災力向上につなげる。 災害時においても、防災拠点として必要な機能が確保できるよう、エネルギー供給システムや、強靱な通信環境の構築に加え、津波・高潮を想定した高さを確保した護岸、大規模地震時も早期に通行可能となる道路など、安全に配慮した施設計画を行う。 再生可能エネルギーや、電動モビリティ等を生かした多様な蓄電機能の確保など、平時の運営と災害時の対応を支える自立分散型電源の導入を図る。 防犯機能や消防機能の確保等を通じて、犯罪や火災などの危険を事前に防ぎ、災害時にも迅速かつ安全に対応できる体制を整え、誰もが安心感を得られる環境を構築する。
<p>(2) 有事に備える空間づくりと体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 来街者、従業員の滞在及び周辺地域で発生した帰宅困難者の受入や支援物資の保管などが可能な空間の確保、インバウンドに向けた多言語対応、必要な備蓄計画の策定を行う。 憩いや交流の場として設ける緑・海辺のオープンスペースは、災害時等には、被災状況や時間経過に応じた柔軟な利用ができるフェーズフリーな空間とする。 	<p>(2) 災害時に備える空間づくりと体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> AIやDXを取り入れながら、誰もが安心して過ごせる環境を整え、その取組を国内外に広く発信することで、先進的な防災都市としてのブランディングを図り、更なる発展につなげていく。 来街者、従業員の滞在及び周辺地域で発生した帰宅困難者の受入を想定し、一時避難や支援物資の保管などが可能な空間の確保と、食料等の必要な備蓄計画の策定を行う。 憩いや交流の場として設ける緑・海辺のオープンスペースは、災害時には、被災状況や時間経過に応じた柔軟な利用ができるフェーズフリーな空間とする。 建物の屋上やオープンスペースにおいて、空路からアクセスできる空間を確保することで、陸路や海路が制限される状況下においても機能する柔軟な支援体制の構築につなげていく。 避難誘導や救助活動等が円滑に行えるよう、安全で分かりやすい動線を確保するとともに、DXを取り入れた防災情報の提供、多言語表記やピクトグラムによる案内など、デジタルとアナログの融合により、災害時においても世代を問わず国内外の誰もが迅速な行動が取りやすい環境を構築する。 自然災害や感染症等への対応など、様々な事態にも迅速に対応できる環境を構

	築するため、定期的な訓練の実施、BCP（事業継続計画）の策定、安全管理及び医療等の関係機関との円滑な連絡体制の確立等に取り組む。
取組の考え方3 横浜の新たな象徴となる魅力的な景観デザイン	取組方針3 横浜の新たな象徴となる魅力的な景観デザイン
<p>(1) 世界に魅せる、時代を超えて愛される都市景観の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人を惹きつけるとともに、市民が誇りに思い、時代を超えて長く愛され続ける景観を形成する。 ・新たに生み出される緑や海辺の空間、最先端の技術を取り入れた建築物などにより、これからの横浜を代表し、世界に誇る都市景観を形成する。 	<p>(1) 世界に魅せる、時代を超えて愛される都市景観の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人を惹きつけるとともに、市民が誇りを持てる空間を形成し、都心臨海部の価値を長期的に高め、時代を超えて愛され続ける景観を創出する。 ・新たに生み出される魅せる緑や海辺空間、持続可能なイノベーションを象徴する最先端技術を取り入れた建築物などが織りなす景観により、これからの横浜を代表し、世界に誇れる都市景観を形成する。 ・遠景での見え方に特に配慮が必要な高層建築物を含め、建築物のデザインは形状・素材・色彩、周辺景観との一体性、遠景から近景までの見え方、低層部にぎわい形成などに配慮し、象徴性と魅力を備えたものとする。 ・シンボルとなる建築物や水際線等の空間特性を最大限に生かし、世界に誇れる横浜の夜景を創出する。
<p>(2) 都心臨海部全体との調和と、個性の発揮のバランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地区の織り成す景観と調和しつつ、各地区の個性と対比的に引き立て合うことで、都心臨海部の景観的価値を更に高める。 ・山下公園や大さん橋など陸側だけでなく、横浜の新たな玄関口として、船上やベイブリッジなど海側からの見え方にも留意し、魅力的なランドスケープや建築物により、都心臨海部における新たな群景を創造する。 	<p>(2) 都心臨海部全体との調和と、個性の発揮のバランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地区の織りなす景観と調和を図りつつ、各地区の個性を対比的に引き立て、都心臨海部の都市形成の経緯や文脈にも配慮して、エリア全体の景観的価値をさらに高める。 ・山下公園や大さん橋など陸側の視点場からの景観に加え、横浜の新たな玄関口として、船上やベイブリッジなど海側からの見え方にも留意し、魅力的なランドスケープや建築物により、都心臨海部における新たな群景を創造する。 ・山下公園との接点は、山下ふ頭への入口として地区全体の印象を決定づける重要な「顔」となるため、特に魅力的で質の高いデザインとする。
<p>(3) 山下ふ頭ならではの景観体験の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街としての一体感を持ちつつも、様々な空間や営みを演出し、多様な景観を創造する。 ・船が行き交う港の様子や洗練された街並みなど、今ある横浜の景観を楽しむ新たな視点場を作り、体験の質を高める。 	<p>(3) 山下ふ頭ならではの景観体験の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街としての一体感を持ちつつも、様々な空間や営みを演出し、多様な景観を創造する。 ・船が行き交う港の様子や洗練された街並みなど、これまで長い時間をかけて形成してきた横浜らしい景観を体験することのできる新しい視点場を提供する。